

◎「汲沢見守り活動連絡会」報告

平成28年8月に「汲沢見守り活動」がスタートして5年が経過しました。以下に今日までの活動実績を紹介します。

「見守り」の対象者は一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯、寝たきり高齢者、認知症高齢者、その他（日中一人暮らし高齢者）で、民生委員、友愛活動員（老人会）、保健活動推進員、町内会・自治会役員・ボランティア、社会福祉協議会理事たちをサポートと呼称して、日々の見守り活動を推進してまいりました。（高齢者とは65歳以上を言います。）

活動の展開にあたっては、「汲沢見守り活動連絡会」と言う組織を中心に、町内会・自治会単位の活動における諸課題の情報交換や課題の議論を通じてより多くの高齢者に対する“ゆるやかな見守り”（詳細は後述）の充実を図っています。

1. 見守りを必要としていた世帯数（平成27年10月当時）

一人暮らし 高齢者	高齢者世帯	寝たきり高 齢者世帯	認知症高齢 者世帯	その他（日 中一人）	合 計
188	236	22	20	19	485

2. 見守り実績延べ世帯数

	一人暮ら し高齢者	高 齢 者 世 帯	寝たきり高 齢者世帯	認知症高齢 者世帯	その他（日 中一人）	合 計
H30年間平均	274	203	5	15	173	669
R元年間平均	330	197	2	16	189	722
R2年年間平均	411	205	5	42	103	766
R3年前半平均	467	225	22	52	91	858

3. 見守りサポーター人員数について

	汲沢町 内会	さつき 町内会	西団地 自治会	東ハイツ 自治会	大久保自 治会	ライオンズ M戸塚第3 自治会	計
H28年8月	23	12	11	9	11	5	71
R元年5月	24	14	11	13	13	10	85
R3年6月	18	14	9	13	8	15	77

4. 見守りの仕方

個別訪問を担当し対象者との対話をしているのは専ら民生委員であります。この他に老人会（友愛活動員）、保健活動推進員、町内会・自治会役員、ボランティア、社会福祉協議会理事等を総称してサポーターと言い、“ゆるやかな見守り”を実践しています。

“ゆるやかな見守り”とは見守り対象者に対して何らかの形で安否確認をできた状態を指します。（例：雨戸は日々開けられている。新聞紙・郵便物が溜まっていない。洗濯物が定期的に干されている。道の途中で見かけた。等々）

5. 「連絡会」の今後について

（1）連絡会の開催頻度について

現在は年間4回（6・9・12・3月）開催し、情報交換や困りごとへの対処方法検討などを行っていますが、この2年間はコロナ禍にあって人の動きが少ない状況下での見守りでしたので従来の様にはできていませんでした。

（2）見守り世帯実績数の集約について

見守り実数を毎月集約していますが、集計表の提出を負担に感じているサポーターが少なからず存在しています。見守り実数・実績を把握することは活動の成果を数的に評価しうる手段ですので、もう暫くの間は継続したいと考えており、サポーターの皆様にはご協力をお願いする次第です。

（汲沢見守り活動連絡会会長：石井 徹）

——— 汲沢を通る国道一号線にまつわる歴史話シリーズ 第三話 ———

◎第三話 日本における道路工事機械化の基礎を固めたワンマン道路

国道一号線と JR 東海道線が戸塚駅近くで交叉する踏切があり、この踏切の開く時間が短く国道一号線の自動車が止められ道路は渋滞状態であった。その解消のため踏切にトンネルを作るか、跨ぐ陸橋を作るかの計画があったが地域住民が反対で実現できず、渋滞がひどくなっていた。

この渋滞を苦々しく思ったのは、時の内閣総理大臣吉田茂と連合軍司令部でした。その吉田茂は私邸が大磯にあり国会に出席の折、車で上京する際は必ずこの渋滞に巻き込まれ遅刻しました。

一方連合軍総司令部も厚木（飛行場）から横浜（司令部本部）の交通が多いため渋滞の影響を受け、渋滞解消の指示をした。

何事も、一人で決めるのでワンマン首相と呼ばれていた吉田茂は、度重なる遅刻の解決手段として、バイパス道路建設実行の指示をした。種々の案の中から山を切り、盛土をし、国鉄東海道を陸橋で跨ぐ汲沢から柏尾のルートが選定された。

連合軍司令部は、早期開通と我が国の道路整備の基礎となる機械化の工法の習得をさせるため、ブルドーザ等の機材を提供した。この機械化習得技術の蓄積により、多くの高速道路建設を進める技術の礎を築いた。完成時期は昭和 30 年 2 月であるが完成前の昭和 28 年 8 月に開通式を行った。

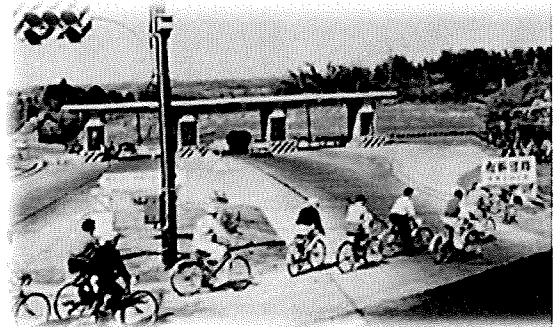
この時点では片側の1車線の完成ですが、そこがワンマン首相の真骨頂、交通規制をかけて午前中は上り車両、午後は下り車両での開通でした。

それは吉田茂が国会に出席するため大磯の私邸から朝出発し午前中に通過し、国会終了後午後この場所を通るからです。完成後は汲沢と柏尾の両入口に有料料金のゲートを設けた。道路の正式名称は“戸塚道路”ですが多くの人々は吉田茂の一声で建設された経緯から“ワンマン道路”と呼んでいた。その後ゲートは撤去され、今では料金徴収所跡は箱根駅伝の花の2区（行き）と9区（帰り）の中継点として賑わっています。

（環境事業推進委員：馬場 芳宏）



汲沢ゲートと道路標示名



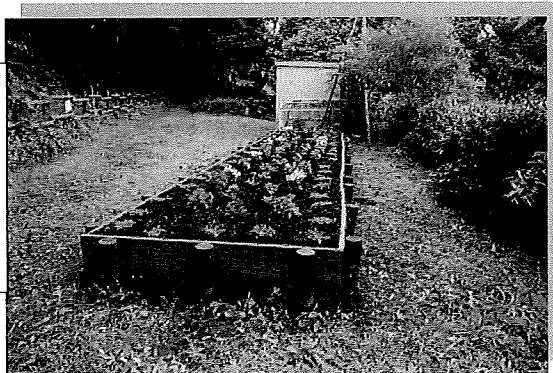
ワンマン道路と一般道路の交差点

——— 社会福祉協議会・連合町内会の活動紹介コーナー ———

◎ 花植え（環境美化活動）



花壇1：雑草あり・作業前



花壇1…作業後

昨年はコロナ禍にあつて社会福祉協議会や連合町内会の活動は一切休止になっていたこともあつて、「まさかりが淵市民の森」淵の上広場にある花壇は雑草が伸び放題になっていました。

雑草取り、根起こし、整地、花植えと近年まれにみるガーデニング的？作業となった「花植え」は6月5日に実施しました。

作業はいつもお花を提供していただいている大島園さんの（石井徹氏）指導のもとに、二つある花壇の雑草取りから花植えまでの作業を花壇1は子ども会が担当し、花壇2は社協・連合町内会の合同チームが担当しました。例年なら作業は30分も掛からずに終わっていましたが、今回は小一時間掛かってしまいました。

今回植えた花は、ニチニチソウ、メカルドニア、百日草でした。11月にも花植えを計画していますが、次回はどんな花を植えることになるのか楽しみでもあります。

今回は子ども会から保護者を含めて25名、社協・連合町内会から22名の参加をしていただきました。

花壇の一段下がった芝生の広場には梅の木があり、少し上った子ども広場には桜の木があって、それぞれの季節には花見を楽しむことができます。

また、市民の森から降りてきたところには「ほたるの里」があって、5月下旬から6月下旬頃にはほたるが飛び交う風景がみられます。是非、足を運んでみては如何でしょうか。

(汲沢地区社会福祉協議会)



花壇2：雑草など有・作業前



花壇2…作業後



ほたるの里
後方は市民の森

ホタルについて

まさかりが淵市民の森愛護会の皆さんが毎年水辺やU字溝の整地・整備、苔や水草を植えたり、さらにはホタルの幼虫と餌となるカワニナ（小さな巻貝）を放流して管理しています。これらの奉仕があってホタルをみることができています。

【お知らせ】

とつかハートプランの第4期が本年度からスタートします。具体的な取組みに関しては別途戸別配布されますので是非ご覧いただきたいと思います。ハートプランは5か年計画ですが、汲沢連合町内会と社会福祉協議会の単年度活動がベースとなります。ご理解のほど宜しくお願い致します。

【編集後記】

新型コロナ禍が発生して約2年、大変な影響を受けたがようやく「ワクチン接種」が70%以上となり、日常の生活が戻りつつあります。このコロナ禍については先人が残した“ことわざ”から学べることがあります。「災いは忘れた頃にやってくる」からは数十年後に新型ウィルスが発生・流行した経験があります。しかし、「備えあれば憂いなし」・「転ばぬ先の杖」からは第6波が来ると予想されていることから、特に医療体制整備と充実、そして国民の生命を守体制をつくって欲しいと心から願っています。(H・K)

(編集委員) 猪口 英子・金木 クミ子・小林 浩・仲庭 久美子・茂木 緑・本田 馨

(アドバイザー) 金子 裕利